

第 55 回 探 花 会 (いわたばこ・いわひば)

日 程 平成 26 年 8 月 3 日 (日)
行 程 日原鍾乳洞・あかべこ
参加者 11 名

ここにはもう 10 年近くご無沙汰していたが、夏の暑さから少しでも開放されようと企画した。このところ下見なしで実行するケースも増えてきた。今回もそうだ。



奥多摩駅

暑さが厳しい夏の日、学校等では夏休みで、案の定、参加を予定していた来れなくなった会員も多かった。しかし、正直なところ参加予定者が当初 20 名を超えていて、この時期健康面でどうかと案じていたが、絞られてきてホッとしたのも事実である。

JR 青梅線終点の奥多摩駅まで来ると幾分涼しいのであろうか、それでも天気はまあまあだがやはり夏だ。

暑さを避けるためバス便を利用する訳だが、土休日は沿道が混むため、バスが終点の日原(にっばら)鍾乳洞まで行かず、少し手前の東日原までで、そこから約 2km 徒歩で行くこと、更に間隔がかなりあることなど、往復の時間の設定に苦慮した。もう一つ、食事処に 10 名で予約はしていたが、集合時間にならないと人数が掴めないこと。いつもの事ながらドタキャンが 2 名でて、11 名となった。

9 時 35 分発のバスの少し前に臨時便がもう 1 台が来て殆んどが乗り込んだが、当グループ 2 名がまだ乗っていなかったため、私は定時のバスで後を追うこととした。

先行のグループには、鍾乳洞の入り口前で待っていて貰うよう携帯電話で連絡しておいた。

記憶を辿ると、この時期、沿道の斜面にイワタバコの花が咲き、道とほぼ同じ高さにあった藁葺き屋根にはびっしりとイワヒバやギボウシが生えていた。

しかし、東日原から鍾乳洞までの沿道には、予測どおり、イワタバコや長い舌のようなピロウドシダは以前と同様にあったが、イワヒバの方は、藁葺き屋根はさすがになく、瓦屋根に変わっていて見られなかった。

ただ、近所の民家の窓内側に鉢植えのものやヘゴ棒にミスゴケでノキシノブ等を包んだ吊り忍ぶにイワヒバが見られた。



イワタバコ



イワヒバ他

日原鍾乳洞

東京都西多摩郡奥多摩町日原

電 話 0428-83-8491

最寄駅 JR 青梅線「奥多摩駅」

秋芳洞(山口県)と並ぶ関東地方最大の鍾乳洞で、大小8窟ある。

最大の新宮窟は内部も見学可能で、2m程の洞内最大の石筍や白衣観音、幾多の石筍が立ち並び垂れ下がる村雨ガ原や賽の河原、蓮華岩等の名前が付せられていて幻想的な風景を見ることができる。年を通じ摂氏11度を保っている。

鍾乳洞の入り 参 考

バス 西東京バス 0428-83-2126

タクシー リーガルキャブ 042-550-2712

鍾乳洞の内部は摂氏10~11度とかなり寒いので長袖着を用意してもらっておいたが、入り口からは寒気ももうもうと噴き出していた。

内部の足元は濡れていて滑り易く、天井は岩がゴツゴツとしていて、注意を払いながら

歩いた。新洞は、急な階段を昇り降りしながら進んだが、石筍等見事で30分~40分ほど

十分に神秘さを感じたところであった。

洞内を出ると、雨が盛んに降っていた。橋を渡り受付のある棟の2階の休憩所で雨を凌

ぎつつ、バス停まで25分と並ぶ時間を見越して待っていたが、やがて通り雨も小降りになったので出発した。



日原鍾乳洞



金剛枝

あかべこ

炉ばた 「あかべこ」

場 所 東京都西多摩郡奥多摩町 荒澤屋旅館内

電 話 0428-83-2365

山の幸を取り入れた田舎定食で、ヤマメまたはイワナ、アワビ茸、刺身コンニャク等が出る筈です。

終点奥多摩駅の少し手前の南1丁目でバスを降りると、向かい側に食事処「あかべこ」があった。旅館の一部を使用しているとのことだ。

今日は、客も多いため、3階の旅館の一室を借り切り田舎料理を楽しむこととした。

このあかべこは、JR市ヶ谷駅でのリーフットでたまたま見つけたものだが、滋賀県人にとっては非常に興味ある名前である。

というのは、戦国時代の福島県会津の蒲生氏郷は、滋賀県日野町から伊勢松坂そして会

津へと移った殿様で、首が動く赤い「あかべこ」も蒲生氏郷にゆかりのあるものとなっている。

なぜ、奥多摩であかべこという名前にしたのか？ この旅館の板前氏の説明を聞きながら食事をした。

本日は、イワナ・ヤマメではなく近くで釣れた天然のアユが卓上に上がった。
アワビ茸、刺身コンニャク等久しぶりで地元の味にふれた。

飲み物も十分にまわったところでお開きとし、暑い夏の日を寛ぎ旅館の前で集合写真を撮ってもらって解散とした。



あかべこ



いわたばこ・いわひば

イワタバコ

岩煙草

イワタバコ科イワタバコ属の多年性草本

山地の陰湿な岸壁に着生

葉は小判型で、タバコの葉に似ているが、質は柔らかく、垂れ下がる。

根茎は、褐色の長毛を密生させる。

夏季、花茎を伸ばして紅紫色の星形花（径1.5cmの合弁花）を数個咲かせる。桃色、白色のものもある。

6月に咲くケイワタバコ、9～10月に咲く葉が細く小型のヒメイワタバコもある。

イワタバコ科のものは、もともと熱帯性で、世界に1500種ほどあるが、日本にはそのうちイワタバコ、シシンラン、イワギリソウ、タマザキヤマビワソウの4種のみ生育している。

最近日本でも温室での育成に力をいれており、セントポーリア属のもの、ストレプトカルパス属のもの等イワタバコ科の植物を見ることが多い。

若葉を食用にする（味噌汁に入れると美味らしい）

民間では葉を陰干しし、それを5～6g煎じて胃腸薬とする。別名をイワナ（岩菜）ともいう。

イワヒバ

岩檜葉

イワヒバ科イワヒバ属で常緑多年生のシダ

以前は茅葺屋根の補強のため屋根上に着生させた。

山地の日陰の岩上に生育する。

湿気があれば拡がり、乾けば巻縮する。

元禄時代から栽培されていて、天保14年（1843年）には品種番付が、萬延元年（1860年）には85種類の名寄せ集が出されているなど培養熱が盛んであった。現在でも名品展示会が各地で催されている。

その他イワの付く草花

イワアカバナ	岩赤花	アカバナ科
イワイチョウ	岩公孫樹	ミツガシワ科イワイチョウ属
イワウチワ	岩団扇	イワウメ科イワウチワ属
イワウメ	岩梅	イワウメ科イワウメ属
イワオトギリ	岩弟切	オトギリソウ科オトギリソウ属
イワオモダカ	岩沢瀉	ウラボシ科のシダ類
イワカガミ	岩鏡	イワウメ科イワカガミ属
イワガラミ	岩絡	ユキノシタ科イワガラミ属のツル植物
イワガネソウ	岩根草	ウラボシ科のシダ類
イワギキョウ	岩桔梗	キキョウ科ホタルブクロ属
イワギボウシ	岩擬宝珠	ユリ科ギボウシ属
イワギリソウ	岩切草	イワタバコ科
イワキンバイ	岩金梅	バラ科キジムシロ属
イワクスリ	石斛	ラン科セッコクの古称
イワシャジン	岩沙参	キキョウ科ツリガネニンジン属
イワショウブ	岩菖蒲	ユリ科
イワスゲ	岩菅	カヤツリグサ科スゲ属
イワタデ	岩蓼	タデ科オンタデ属オンタデの別名
イワチドリ	岩千鳥	ラン科
イワツメクサ	岩爪草	ナデシコ科ハコベ属
イワナシ	岩梨	ツツジ科イワナシ属
イワハゼ	岩櫨	ツツジ科シラタマノキ属 アカモノの別称
イワヒゲ	岩髭	ツツジ科イワヒゲ属
イワヒトデ	岩人手	ウラボシ科の常緑シダ
イワブクロ	岩袋	ゴマノハグサ科イワブクロ属
イワベンケイ	岩弁慶	ベンケイソウ科イワベンケイ属
イワボタン	岩牡丹	ユキノシタ科
イワユキノシタ	岩雪下	ユキノシタ科イワユキノシタ属
イワレンゲ	岩蓮華	ベンケイソウ科イワレンゲ属
ガンコウラン	岩高蘭	ガンコウラン科ガンコウラン属
ガンゼキラン	岩石蘭	ラン科ガンゼキラン属

イワの付く樹木

イワウメヅル	岩梅蔓	ニシキギ科
イワシモツケ	岩下野	バラ科シモツケ属
イワツツジ	岩躑躅	ツツジ科
イワデマリ	岩手毬	バラ科 トサシモツケの別称
イワナンテン	岩南天	ツツジ科イワナンテン属

イワの付く魚

イワナ	岩魚	サケ科の陸封魚（ヤマメやイワナのように遡河魚の一部が、一度も海に下らずに、淡水中で成熟、産卵するように変化したもので、このような現象を「陸封」という） 体側に淡い色斑点と小朱点が多くある。 腹ビレと臀ビレは美しい黄色。日本・台湾内地の溪谷に生息、北日本では海へ下り、真のマス型となって成熟する。 この型のものを「アメマス」という。
-----	----	--

因みにヤマメ（山女）は、同じサケ科の魚でマスの陸封魚
体側に約10個の黒斑と多数の黒点がある。

イワの付く蝶

イワカワシジミ	シジミチョウ科
イワサキコノハ	タテハチョウ科
イワサキシロチョウ	シロチョウ科
イワサキタテハモドキ	タテハチョウ科

イワの付く鳥

イワツバメ	岩燕	ツバメ科
イワヒバリ	岩鷲	イワヒバリ科
イワミセキレイ	岩見鶴鴿	セキレイ科

イワの付く雲

イワグモ	岩雲	岩に似ている夏の雲
------	----	-----------

俳句 松尾芭蕉 立石寺にて
閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声

百人一首 崇徳院（第75代天皇）

瀬を早み 岩にせかるゝ 滝川の われても末に あわむとぞ思ふ